

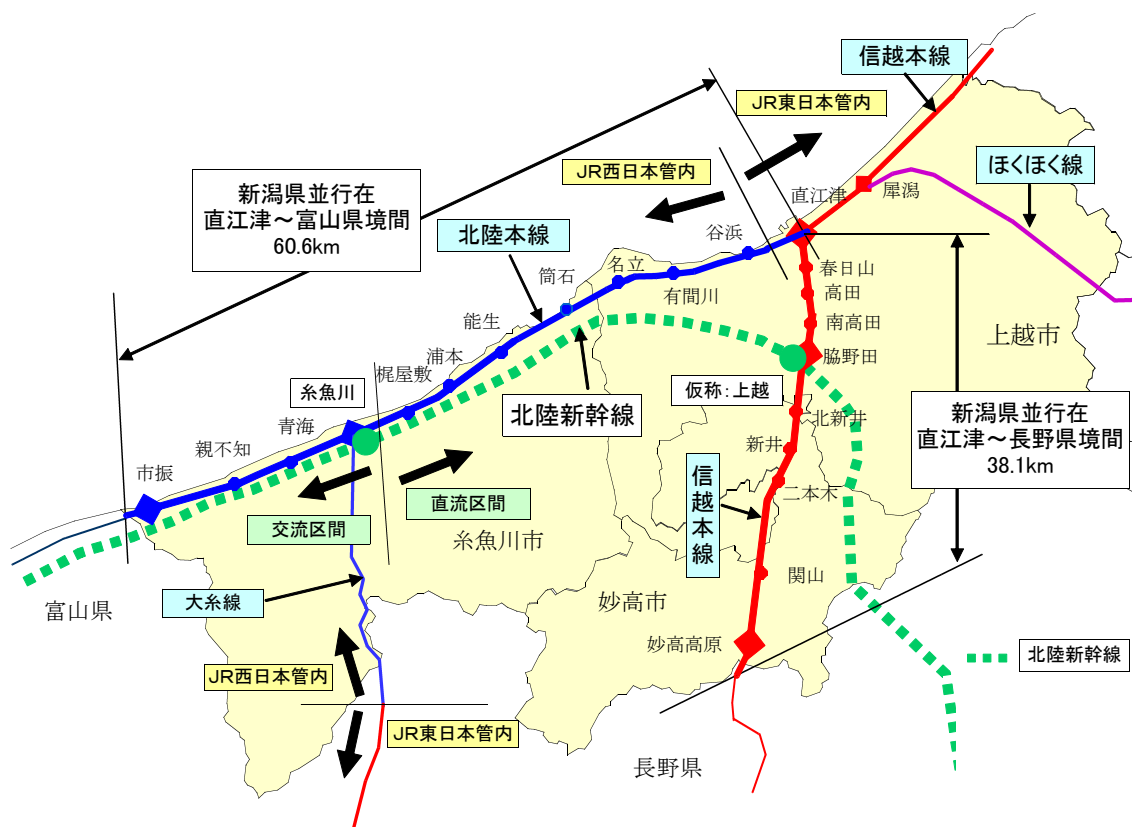
I 並行在来線とは



1. 並行在来線って何のこと？

並行在来線とは、整備新幹線の開業に伴い、ＪＲから経営分離される在来線のことです。

新潟県の場合、北陸本線の直江津～富山県境間、信越本線の直江津～長野県境間が、北陸新幹線の金沢開業時の平成 26 年度末（2014 年度末）に西日本旅客鉄道株式会社（以下「ＪＲ西日本」という。）及び東日本旅客鉄道株式会社（以下「ＪＲ東日本」という。）から経営分離されることになっています。



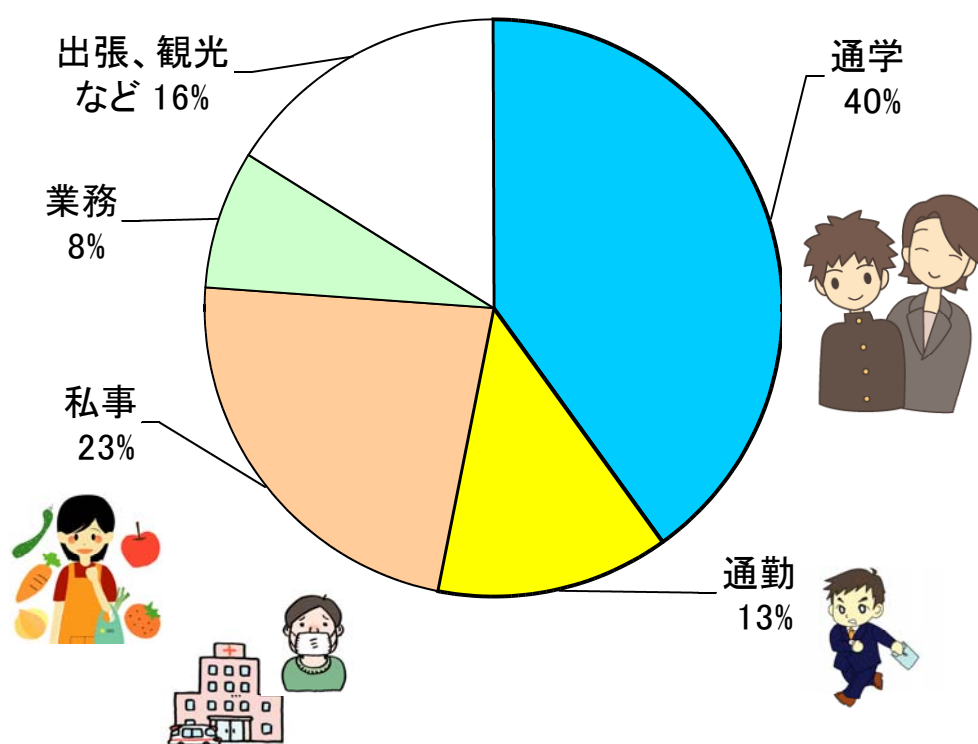
新潟県内の並行在来線は、北陸本線及び信越本線の２路線、合計 98.7 km です。
北陸本線では直江津～富山県境までの 60.6 km が相当し、直江津駅から市振駅までの間に計 11 駅（直江津駅含まず。）が設置され、現在ＪＲ西日本が経営しています。

信越本線では直江津～長野県境までの 38.1 km が相当し、直江津駅から妙高高原駅までの間に計 10 駅（直江津駅含む。）が設置され、現在、ＪＲ東日本が経営しています。

2. どんな目的で利用されているの？

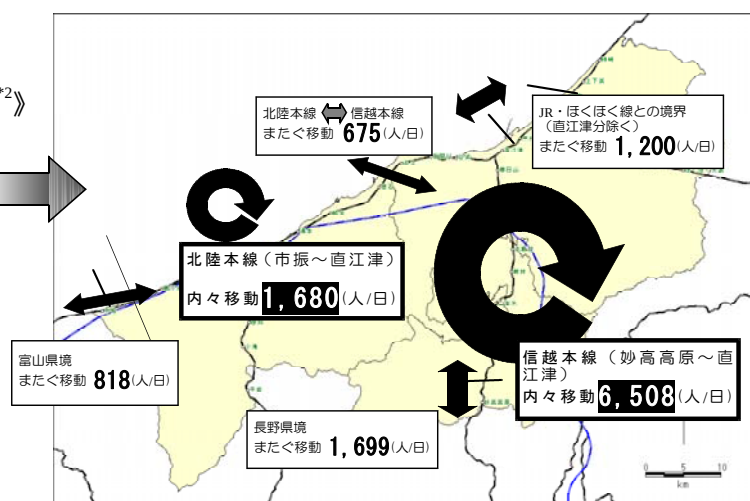
通学で40%、通勤で13%となっており、利用者の半数以上が通勤・通学などの生活路線として利用しています。

《目的別利用状況^{*1}（H19）》



《並行在来線区間の旅客移動状況^{*2}》

県境をまたいで移動する人が少なく、沿線市が核となった生活圏での近距離利用が中心であることがわかります。



*1 『目的別利用状況』：利用実態調査（平成19年実施）における、並行在来線区間の乗降人員の目的構成より

*2 『並行在来線区間の旅客移動状況』：利用実態調査（平成19年実施）における、並行在来線利用者数より

3. 並行在来線はどんな役割を担っているの？

(1) 日常生活を支える交通手段です。

並行在来線は、バスなどの公共交通機関とともに、沿線住民にとって通勤・通学、通院や買い物など、日常生活に欠かせない交通手段となっています。

特に、自動車を運転できない高齢者や高校生など、いわゆる交通弱者にとっては、欠かすことの出来ない大切な交通手段です。



鉄道がなくなると、バスしかなくなるわ。
バスもいいんだけど、鉄道よりも運賃が高くなりそうだし、時間もかかっちゃいそう。
毎日電車で通う高校生のいる家庭は、大変。
街の商店街には、簡単に買い物に行けなくなるわね。

(2) 全国的な物流ネットワークの一翼を担っています。

北陸本線には貨物列車が運行されており、日本海を縦貫する貨物鉄道の幹線を担うなど、全国の物流ネットワークの一翼を担っています。



新潟県の区間で貨物鉄道がなくなると、日本海を縦貫する全国の物流ネットワークはどうなる？どうする？
トラック輸送が増えたら、道路が渋滞して配送時間もつかみづらくなるな。CO₂も増えるし・・・。

(3) 広域的な交流ネットワークの形成に役立っています。

並行在来線は、上越地方と県内の中越地方や下越地方、隣接する長野県や富山県、広域圏の北陸・中京・東北圏とを結び、また、新幹線と連携した交流ネットワークの形成に重要な役割を担っています。

特に、北陸本線については、本県において関西・北陸方面と東北・北海道方面を結ぶ重要な路線となっているほか、新潟県内と北陸地域間の直通列車の運行などにより県土が分断されることを防ぐ機能を果たしています。



新幹線に接続する鉄道がなくなると、不便ね。
せっかく新幹線が通っても、人が行き来しづらくな
っては、地域にとってはかえってマイナスだわ。

(4) 鉄道の優れた特性によって、地域に様々な貢献をしています。

鉄道の存在は地域間競争の激しい時代にあっては、まちづくりのための重要な装置であり、地域の魅力として大きな強みでもあります。



鉄道が廃止された”まち”は、社会的・経済的な
評価がどんどん低下していくよな。地域の経済が
沈滞しないか、心配。